

# 自然の生命力 尊敬

植物を克明に描く画家、群馬直美さん(62)＝高崎市出身＝が作品集「葉っぱ描命」を出版した。前橋市内で採集した身近な葉や植物を精緻に描いた作品と、下仁田ネギを描いた英国王立園芸協会主催の植物画展「ボタニカルアートショー」の最優秀受賞作を収めた。県内の生命力あふれる自然を尊敬や愛情のまなざしで見つめた、葉画家としての渾身の作品集が出来上がった。

作品集「葉っぱ描命」出版  
画家 群馬直美さん

前橋市内の植物は、建設生産のヤマト(同市古市町)が環境保全の一環として社内に設けるヤマトビオトープ園のもの。群馬さんは同社の月刊広報誌で2016年から連載を担当しており、同誌で掲載した絵を収録した。

## 身近な葉や植物 下仁田ネギ収録

描いた日付を入れ、ペー지를めくるごとに四季を感じられる体裁になっている。初めての採集で、冬に葉を落とさずに付けているロウバイの枝と出合い、「O・ヘンリーの短編小説『最後の葉』のよう」と魅了された。本作は、大きく花を開くヤマブキや赤く色づくモミジといった美しさのピークだけでなく、枯れかけのアジサイや虫食いのキンモクセイの葉といった終わり際も慈しみ深く描いている。

まっている。作品の多くは、原寸大。「絵と文を書くのに1カ月ほど付きつきりになる」という。画法は中世欧州で用いられた「最後の晩餐」でも用いられているテンペラだ。

下仁田ネギを描いたのは15年、伝統農法を知ろうと下仁田町馬山へ取材に行ったことがきっかけ。祖父が青果店を営んでいたこともあり、「自分の根源を知ることができると」の思いもあった。1年目は資料収集、2年目には生産過程を写真に収めるなど、年月をかけて丁寧に制作した。

英国の賞を受賞した作品でもあることから、コラムに英訳を付けた。翻訳家と会議を重ね、細かいニュアンスまで伝わるように使用する単語などもこだわった。

昨春秋、作品集のコラムにも登場する父親が生涯を閉じた。今年9月下旬には完成品を持って墓前に報告した。「父がいなければ私は生まれていなかった。父に頂いた命で私は葉っぱの絵を描いている」

燦葉出版社刊。A4判フルカラー、96ページ。2750円。

(北沢彩)



「葉っぱ描命」を出した群馬さん